

スロバキアにおけるロマ問題の構造と現状打開の可能性*

—— ロマ問題の歴史的背景と社会的包摂(inclusion)の試み ——

在スロバキア大使館
専門調査員 福田 宏

要旨

ロマ（ジプシー）問題の解決は容易ならざる課題である。これまでも EU などより巨額の資金が投じられ、数々の公的機関、研究者、NGO によって実態調査が行われ、おびただしい量のレポートと処方箋が提示され、数々の政策が実施されてきた。だが、問題が解決する兆しは一向に見えない。これまでロマに関わりのなかった日本がいたずらに関与したとしても屋上屋を架すのみであり、事態を劇的に改善させるようなことは、恐らくないだろう。

だが、1990 年代以降、中・東欧諸国に進出する日系企業が増加しており、ロマとの接点が生じやすい地域に工場を構える企業も出てきている。その点からすれば、欧米と普遍的価値観を共有する日本にとってもロマ問題は傍観すべきものではなく、人権保護と日系企業支援の観点より積極的に取り組むべき課題となる。

本稿では、こうした点に鑑み、既存の研究成果を踏まえつつも敢えてそこから距離を置いた考察を行いたい。まず第 1 章では、ロマ問題を問題たらしめている構造を明らかにし、歴史的な視点から彼らの存在を相対化する見方を提示する。続く第 2 章では、スロバキアにおけるロマ社会の現状を概観し、我が国では殆ど知られていないオサダ（集落）の現実を紹介すると共に、1990 年代末に生じたロマのエクソダスなど非ロマ社会との緊張関係を明らかにしたい。最後の第 3 章では、ロマ問題の解決に向けた理論の提示を行う。ただし、本稿の目的は対症療法的な処方箋を提供することではない。ここでの主眼は、ロマに対する多数派社会の眼差しそのものを脱構築することであり、新たな視点で問題に取り組む基盤を提供することである。

* ロマ集落を含むスロバキア東部の調査（2008 年 3 月実施）に関しては、ドゥドラ（Ján Dúdra）スロバキア・ラジオ評議会委員（コシツェ在住、元医師）の協力なくしては実現し得なかった。ここに記して感謝申し上げる。

目次

はじめに	3
1. ロマ問題の構造 — 差別の歴史的背景	6
1.1 ロマの起源 — インド起源説に対する疑問とロマの多様性	6
1.2 社会的構築物としてのロマ	7
1.3 ロマに対する強制不妊と優生思想	10
2. ロマ問題の現状	12
2.1 或るロマ集落の概観 — 東北部のレナルトウ村の場合	12
2.2 スロバキアにおけるロマ問題の概要	14
2.3 1990年代末におけるロマのエクソダス	18
3. 解決の可能性、同化でもなく統合でもなく	20
3.1 共存モデルとしてのドゥナイスカー・ルジュナー市 (Dunajská Lužná)	20
3.2 ポスト社会主義時代の包摂政策 — 中・東欧における多文化主義の可能性	22
3.3 承認型多文化社会への助走 — 突破口としてのロマニ語教育	24
おわりに	27
インタビュー記録 (ABC 順・敬称略)	30
参考文献	31

写真1 ロマの子供たち¹



¹ 本稿における全てのロマ集落の写真は、レナルトウ村にて2008年3月11日に撮影されたものである。